

入門期に、文字なしで、どんな授業が可能か

1. 年間の設定

- (1) 文字なしの授業は最初の5回(年間の全てではない)
- (2) 週1回、50分
- (3) 10~15人
- (4) 外語ビジネス専門学校での授業をモデルに

2. 授業内容

単元「出会いと自己紹介」

(1) こんにちは (教科書1課)

- ・ こんにちは。(안녕하세요?)
- ・ 名前は何ですか?→私は○○です。(이름이 뭐예요? - ○○예요.)
- ・ どの国の人ですか?→○○人です。(어느 나라 사람이에요? - 일본 사람이에요.)
- ・ どこに住んでいますか?→○○に住んでいます。(어디에 살아요? - ○○에 살아요.)
- ・ どの学校に通っていますか?(어느 학교에 다녀요?)
→外語ビジネス専門学校に通っています。(외국어 비즈니스 전문학교에 다녀요.)
- ・ 韓国語上手ですね。→ありがとう。(한국말 잘 하네요. - 고마워요.)
- ・ よろしく。(반가워요.)
- ・ さようなら。(안녕히 가세요.)

単元「ふだんの生活」

(2) 朝、なに食べた? (教科書2課)

何食べましたか/飲みましたか?(뭐 먹었어요/ 마셨어요?) (昨日、今日)
○○食べました/飲みました。(○○ 먹었어요/ 마셨어요.)

(3) どこに行きましたか? (教科書3課-1)

どこに行きましたか?(어디에 갔어요?)
○○に行きました。(○○에 갔어요.)

(4) 宿題、やった? (教科書3課-2)

何をしましたか?(뭐 했어요?)
○○しました。(○○ 했어요.)

(5) どこに行くの? (教科書4課)

どこに行きますか?(어디에 갈 거예요?) (今日、明日)
○○に行きます。(○○에 갈 거예요.)
何乗って行きますか?(뭐 타고 갈 거예요?)
○○乗って行きます。(○○ 타고 갈 거예요.)

3. 授業各回の流れ 授業(2)の例

(1) 前回の復習

(2) 導入 「今日は、食べたものを話せるようにするよ。」

(3) 質問の練習 「繰り返してね。뭐 먹었어요?」

「뭐가何、먹었어요が食べた。もう一回、練習しよう。뭐 먹었어요?」(合唱)
一人一人発音させ確認する(生徒も自分の発音が正しいことを確認する)。

(4) 生徒に質問

(一人の生徒に)「뭐 먹었어요?」

(生徒)「お弁当ですけど」

「お弁当は、도시락、そうしたら? そう、도시락 먹었어요. 言ってみよう」

「みんなも練習しよう」(合唱)

(5) 他の生徒にも同じく質問

その生徒に、次の生徒に質問させる。

(6) 答え(単語)の整理と練習

「弁当は何だっけ?・・・そう、繰り返してね。도시락」

何人かに指名して単語を言わせるなど。

(7) ペアワーク(隣、前後など)

「こんどは、隣の人、前後の人に聞いてみて。質問はどうだっけ?」

「そう、뭐 먹었어요. 答えるときも 먹었어요 だよね。」

(8) 前回までの会話と合わせて総合練習

「じゃあ、前回のあいさつと自己紹介をして、それから今日食べたものを聞いて、答えてみよう。隣の人とやってね。」

(9) 復習とまとめ

「最後に練習ね。何食べたか聞くときは何ていう?」(合唱)

「お弁当は?・・・じゃあ、お弁当を食べた、は?」(合唱)

4. 授業中のポイント

4.1. メモはぜったい禁止

(1) メモは忘れるためにある。

(2) メモをすると教師の声を聞かなくなる。

(3) 忘れないのか→ 忘れます。メモしても忘れるものは忘れる。

(4) メモを見ての発話は自分のもの(言語活動)ではなく、文字の再生に過ぎない。

4.2. 発話することを恐れさせないこと

(1) 何度でも教える。

(2) 間違えてもマイナスな反応をしない。

(3) 発音指導は通じる程度にとどめる。

5. 授業内容をどのように選択するか

5.1. 会話は過去のことから先に

5.2. 格助詞はやらない「～が」「～を」「～の」

5.3. 入れ替え単語の選択

(1) 必ず事実をコミュニケーションする・基本単語だからと無理やり覚えさせない。

(2) 予め候補は挙げておく(教科書の例を参照)。

(3) 訳語に困ったら →デフォルメ(牛丼→肉とご飯(고기랑 밥)など) →日本語で

6. なぜ、文字なしでやるのか(理論的な背景)

6.1. 「覚える」ためには耳と口

6.2. 「話す」訓練に十分な時間を確保

6.3. 「話せる」ものしか自信は持てない

6.4. 自信が持てないものは読めない・書けない